

逗子の景観まちづくり

瓦版 第二十三号

平成二十六年一月十七日

編集 逗子市環境都市部まちづくり課

協力 NPO法人逗子の文化をつなぎ広め深める会

募集 逗子の景観スケッチや六百字以内の景観に関するコラム等を募集しています。

二四九・八六八六

逗子市逗子五丁目二番十六号

「逗子市まちづくり課 瓦版係」

電話 〇四六・八七三・一一一一

ファックス 〇四六・八七三・四五二〇

machi@city.zushi.kanagawa.jp

「世界で一番好きな逗子」

文 山田 美緒

「逗子みただね」

「逗子のほうがすごいね」

私たち夫婦は旅先でいつもそんな言葉を交わす。



「正月の逗子銀座通り入口」 M・I

北海道で青森で高知で、イタリアでタヒチでタイで台湾で…。他人から見ればどこが？という景色でも私たちにとっては逗子であり、逗子が一番なのだ。

「逗子に引っ越さない？」

都内に勤務する会社員、サーフィン好きの夫からの提案だった。東京への通勤に便利で海があつて山があつて、子育てするにもいい環境だ、とのこと。

「逗子？」

それまでお互い大阪、名古屋、アフリカ、世界のあちこちで暮らしていた。私は自転車を通じた社会的な活動を行う「サイクリスト」として自転車イベントの主催や講演、執筆をするのが仕事でオフィスは自宅。当時生活していた東京に特に愛着はなかったので、引っ越しという言葉に抵抗はなかったのだが、でも逗子ってどこだろう。地図を確認し東京駅までの距離を算出すると約55キロ、往復100キロほどか、悪くない。しかも、サイクリング地としても人気のある三浦半島や134号線の玄関口、最高の自転車環境！ほぼ即決だった。

あれから4年。2人の息子が生まれ4人家族になった私たちがどこに行っても思い出すのは逗子の景色。木々に囲まれた我が家、鳥や虫の声、小さな商店街、入り組んだ住宅街。ごはんまりとした逗子海岸、海風感じて走る134号線。

「やっぱり逗子が一番だね」
自画自賛。逗子が大好きな私たちは世界中でわが町逗子に遊びに来るように勧めている。



「山の根の道 市内には自転車をこいで心地よい道がいっぱいあります」 谷 守弘

